



地域部活動へ移行 受け皿の検討を

原 裕司議員

地域にあった活動方法を協議調整する
スポーツ課長



▲変わる休日の部活動、地域部活動へ移行(佐屋中)

問 文部科学省は、学校

における働き方改革で、
教員の長時間労働を改善
するため、休日の学校部
活動を地域部活動へ移行
しようとしている。

答 市教育委員会が、把握
している中学校教員の、
正規勤務時間外の部活動
も含めた在校時間で、最
も多い月や時間・人数は。
答 調査対象人数128
人中、45時間を超える教
員が一番多かった月は、10

月の94人、1000時間超

えは7人だ。次に6月の
45時間超えは71人、10
0時間超えは14人だ。

問 日頃の指導や休日の

大会等の部活動に関する
教員の手当支給額は。

答 特殊業務手当として、
土日の指導は3時間以上
で2700円、大会等は8
時間以上で、5100円
を支給している。

問 移行にあたっては、地

域部活動を行える体制づ
くりが重要だ。この受け
皿の検討は。

答 中学生を受け入れて
いる地域のスポーツ少年
団等で、検討を進めてい
る。

問 受け皿は、点でなく

線で検討する必要がある。
今ある社会資源の活用
を考えれば、スポーツ課

管轄の、総合型地域ス
ポーツクラブが人材確保
から育成、紹介まで管理
運営が可能だ。受け皿と
しての考えは。

答 現時点では、不透明
な部分も多く、今後、地
域にあった活動方法を協議
調整していく。

況は。

答 3月1日現在、10件
で市外の利用はない。

問 斎場の利用における、

指定管理者、葬儀業者、
利用者との約束事や通常
利用との区分けなど、安
全配慮は。

答 国のガイドラインに
基づき、通常の火葬時間
と区分して受け入れ、参
列者を必要最小限にして、
式場ホールと火葬ホール
を扉で遮断するなど動線
が重ならない配慮をして
いる。

コロナ禍での 総合斎苑の 利用状況は

問 コロナ感染症による
死亡者で、市外を含めた
愛西市総合斎苑の利用状